

季
刊

まんだらげ



和歌山県立医科大学附属病院広報誌

Vol. **75**

2026
WINTER



特 集

①リハビリテーション医学・医療について ②「低侵襲心臓血管外科手術」のご紹介

雪のあらぎ島(有田川町)

CONTENTS

Topics

- 就任の挨拶(先進予防・健康医学講座 上田教授)
- 就任の挨拶(放射線医学講座 土井教授)
- セラピードッグ「チャチャ」とのふれあいで、心も元気に
—小児医療センターで新しい取り組みが始まりました—
- マイナンバーで簡単! あなたの医療情報をスマホでチェック
青洲リンクPHR機能NOBORIアプリのご案内
- 令和7年度救急医療功労者に対する知事表彰を受賞しました!
- 心不全パンデミックに立ち向かう新たな治療戦略の可能性
—DAPA-EAT試験結果の発表—

Information

- 第33回 和歌山県立医科大学眼科 市民公開講座
- てんかんに関する悩みはありませんか
- 青洲基金への寄附金贈呈式を執り行いました

【理 念】

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

【基本方針】

1. 患者さんとの信頼関係を大切に、十分な説明と理解に基づく同意を得て、安全な医療を行います。
2. 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
3. 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
4. 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲(はなおかせいしゅう)が全身麻酔薬として用いた植物「曼荼羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

リハビリテーション科 リハビリテーション医学・ 医療について

リハビリテーション医学とは

リハビリテーション医学は、「活動性を育む医学」です。

私たちは、さまざまな病気や障害がある方々が活動性を高め、その人らしい生活を取り戻せるように支援する医療を提供しています。

対象となる病気や障害は、脳卒中、骨や関節・脊

椎・脊髄の病気、脊髄損傷、神経や筋肉の病気、切断、心臓・肺・腎臓・肝臓・血液の病気、糖尿病やリウマチ、がん、摂食嚥下障害、耳鼻科領域の障害、スポーツ障害、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、フレイルなど、多岐にわたります。

超急性期から取り組むリハビリテーション

和歌山県立医科大学附属病院では、病気やケガで入院したその日からリハビリテーションを開始できる体制を整えています。

例えば脳卒中では、「発症から24時間以内にリハビリを始めた方が、半年後の生活機能が良くなる」ことがわかっています。そのため、発症当日からでも身体を起こしたり、身体を動かしたりします。

また、集中治療室の患者さんにも、他施設では難しい先進的な超急性期からの早期リハビリテーションを積極的に進めています。これまでの常識を疑うことから始めることにより、当院ならではの早期離床が実現しています。理学療法室や作業療法室では朝から入院患者さんが運動を始めます。



がんリハビリテーションへの挑戦

和歌山県立医科大学では、がん患者さんへのリハビリテーションにも力を入れています。

特に特徴的なのは、手術前から運動療法（筋力トレーニング・持久運動）を始める取り組みです。術前から筋力を強くして体力を高めることで、手術後の早期離床につながり、肺炎などの合併症予防に役立ちます。これは、みらい医療推進センターのサテライト診療所と連携し、消化器外科の患者さんを中心に

継続して実施しています。手術翌日から立つ・歩くなどのリハビリテーションを進めることで、実際に呼吸器合併症を減らす成果につながっています。

今後は、「Exercise Oncology（運動腫瘍学）」の視点から、医療の枠を超えて、がんサバイバーや市民が主体的に身体活動を高められる仕組みづくりにも取り組んでいきます。

けいしゆく

痙縮への多角的治療

痙縮とは、筋肉がつっぱって動きが妨げられる状態です。脳卒中をはじめ、脳性麻痺、脊髄損傷、頭部外傷、低酸素脳症、多発性硬化症などが原因となり、歩行の妨げや、食事・更衣・清潔などの日常生活に大きな影響を及ぼします。

私たちは、以下のような複数の治療を組み合わせた最適な医療を提供しています。

理学療法（物理療法・運動療法）、作業療法

装具療法

薬物療法

手術療法

神経ブロック

ボツリヌス療法

髄腔内バクロフェン療法



痙縮の症状（一例）

地域とともに歩むリハビリテーション

和歌山県は、全国的にも要介護認定率が高い地域です。

この課題に向き合うため、新棟が完成した紀北分院を拠点として、短期入院で集中的に機能回復を図る強化型リハビリテーションを実施しています。

対象となるのは、以下のような症状のある高齢者や障害のある方々です。



歩きにくくなった

体力が落ちて
疲れやすくなった

痛みで動きづらくなった

筋力トレーニングや持久運動を中心としたリハビリテーションで、在宅期間を延長し、介護予防を通じて、「げんきに長生き」を目指します。

この取り組みは訪問診療、ケアマネジャー、社会福祉協議会とも連携することで、地域の高齢者や障害者の生活を支える体制を強化しています。これはまさに、厚生労働省が掲げる地域包括ケアシステムの実践そのものであり、私たちの重要な使命です。



▲紀北分院東館（新棟）（令和7年7月14日開業）

心臓血管外科

低侵襲心臓血管外科手術
の紹介

心臓の手術は負担が大きい？

手術を受けたいと思う人は少ないでしょう。それが心臓手術となればなおさらです。

しかし現在の日本人の死因の第一位は癌、第二位が心疾患（心臓病）といわれています。薬物治療、カテーテル治療が最適と思われる病態ならそうすべきですが、中には手術加療が必要な患者さんもいます。治療を行う時にはガイドラインに沿った治療が標準となりますが、それぞれの患者さんによって合併症の有無も違うため、すべてはガイドライン通りにはいかないのが常です。心臓は体中に血液を送るポンプの役割を果たしています。その機能を術後も長期にわたって維持するために手術が最適だろうと考えられる病態では、手術

が第一選択となります。

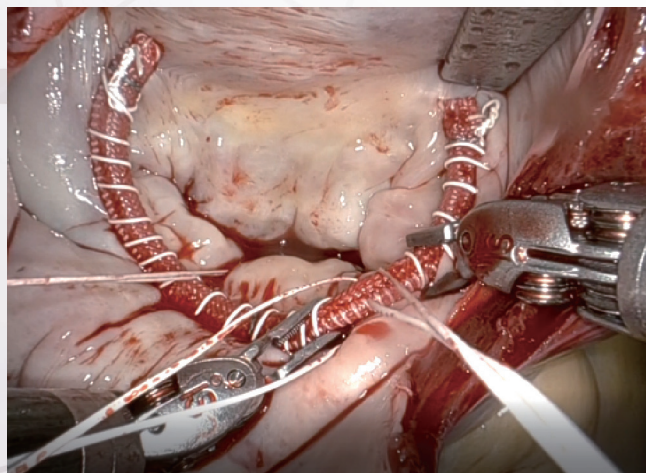
‘心臓の手術ってこわいな’これは誰もが抱く心臓手術の印象です。そして術後も痛いだろうと不安に思われるでしょう。他の外科手術と比較すると心臓手術のリスクは高いといわれています。多くの方が糖尿病、高血圧、脂質異常、慢性腎臓病などを合併しており、それらが手術のリスクを高めているからです。そして心機能が良好なのか、悪いのか。これが手術成績に最も大きくかわる因子となります。



術後の回復が早い低侵襲心臓手術

以前は「胸骨正中切開」という、胸の前面で心臓を保護するようにある胸骨を縦割りにして手術を行うことが唯一の方法であり、すべてこのアプローチで手術が行われていました。これが術後の感染症や、痛みに伴うリハビリの遅れにつながり心臓手術は大変という印象でしたが、最近は胸骨正中切開を行わない、「右開胸下心臓手術（肋骨と肋骨の間の筋肉を切る方法で低侵襲心臓手術と呼ばれる）」が数多く行われるようになりました。実際、我々も術後の患者さんの状態を見ると回復は早く、患者さんにとって良い治療だと考えています。さらに最近では手術支援ロボット「ダヴィンチ（DaVinci）」を用いることで、傷をより小さくすることが可能となりました。すべての心臓手術でこれらの低侵襲手術が可能というわけではありませんが、和歌山県立医科大学附属病院・心臓血管外科ではこれら低侵襲心臓手術を積極的に行っています。

下の写真はロボット支援下で行った僧帽弁形成術の様子です。僧帽弁という前尖・後尖の2つから成る弁を形成し、その周りに人工リングを当てて補強しています。



胸部・腹部などの動脈にはステントグラフト治療も

また胸部および腹部の大動脈においては、従来の開胸や開腹手術ではなく、カテーテルを用いた「ステントグラフト治療」を積極的に行っています。

特に胸部の開胸手術は、心臓外科領域において最も体への負担が大きい手術の一つであり、ステントグラフトが可能な患者さんにおいては非常に効果的な手術と考えています。

また腹部大動脈手術もステントグラフト治療を多く行っています。腹部に手術歴のある患者さんではおなかの中で腸が癒着していることも多く、手術時間が延びたり腸を損傷したりする可能性があります。ステントグラフト治療ではそのような癒着によるトラブルを回避できます。ステントグラフト治療では多くの患者さんが術後1週間程度で退院することが可能であり、開胸や開腹手術よりも早い期間で社会復帰が可能です。

しかしながらこれらのステントグラフト治療にも適応・非適応があり、術前の綿密なCTでの計測の結果、ステントグラフト治療の

適応外となる患者さんもいます。

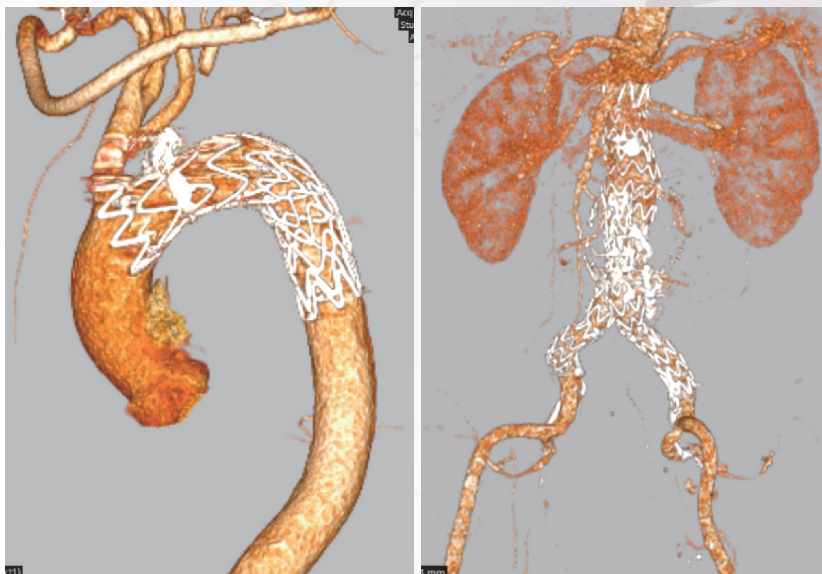
下肢動脈疾患に対しても同様に低侵襲治療を行っています。従来の外科手術では比較的大きな傷が残ることがありましたが、血管内治療ではカテーテルによる皮膚の傷のみとなるため1cmにもなりません。また下肢動脈疾患の患者さんは複数回にわたり治療が必要なことがあります。血管内治療は体への負担が少ないため、繰り返し治療を行うことができるのも大きなメリットとなります。しかしこの治療にも適応・非適応があり術前にその判断がなされます。

心臓血管外科領域も他の外科領域と同様に様々な低侵襲治療が行われています。

適応・非適応となる患者さんはありますが、より多くの患者さんに効果的な、低侵襲な治療を行うことができるよう努めています。

低侵襲手術とは…

患者さんの身体への負担を最小限に抑える手術のことです。内視鏡やカテーテルなど、身体への侵襲が低い医療機器を使用し、従来の開腹・開胸手術に比べて、傷口が小さく、術後の痛みや入院期間が短い、早期回復・社会復帰につながるといった利点があります。



患者さんに適したより良い治療を

日本は高齢化社会を迎えております。当院で手術を受けられる患者さんの年齢層も20年前と比較するとかなり高くなりました。特に高齢の患者さんに対しては、認知機能や筋力への悪影響が出ないこと、少しでも早く復帰できることを目指して治療に取り組んでいます。

また、大学病院ではその総合力を生かして、心臓血管外科だけでなく、循環器内科や放射線科と協力し、チームとして患者さんによりよい治療を提供できるよう努めています。和歌山県における心疾患(心臓病)での死亡を少しでも減らしていくのが我々の務めだと考えています。

教授就任挨拶

和歌山県を「予防・健康」県に!



先進予防・健康医学講座
教授 上田 豊

2025年9月1日付けで和歌山県立医科大学医学部先進予防・健康医学講座の教授に就任致しました上田豊と申します。就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

「先進予防・健康医学講座」は従前の「公衆衛生学講座」を改名し、健康増進というビジョンをより打ち出した講座と言えます。近年は多くの診療科において治療成績が向上し、世界水準の治療を日本のどこでも受けられるようになってきました。しかし、やはり病気になってしまうと、患者さんには大きな精神的・肉体的負担が生じます。予防できる病気はぜひ予防していただきたいと思いますが、万が一発症した場合に備えた『早期発見』も同様に重要です。しかしながら、和歌山県における肺がん・胃がん・大腸がん・乳がん・子宮頸がんのがん検診受診率はいずれも全国と比べて低い水準となっています。皆様に病気を予防する意義を少しでもご理解いただけるように適切な情報の発信を行い、また予防に限らず、病と向き合っておられる患者さんの精神的支援も行いたいと考えています。

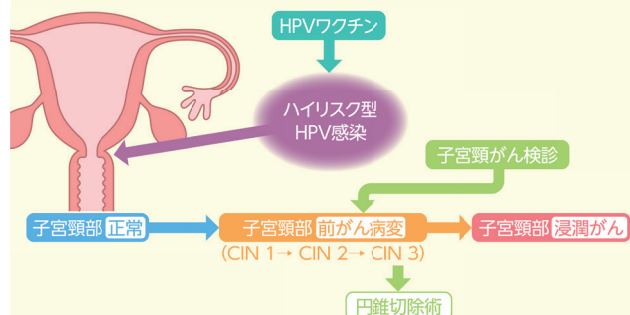
「公衆衛生学」の枠に捉われず、すべての皆様の体の健康、心の健康の維持や増進に努めて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

経 歴

- 1996年3月 大阪大学医学部 卒業
- 1996年6月 大阪大学医学部附属病院 産科婦人科 初期研修医
- 1997年6月 泉大津市立病院 産婦人科 研修医
- 1999年6月 大阪大学医学部 産科学婦人科学 研究生(後期研修医)
- 2001年7月 大阪大学医学部附属病院 産科婦人科 医員
- 2002年7月 大阪大学医学部 産科学婦人科学 助手
- 2005年1月 大阪大学 博士(医学)
- 2005年9月 National Cancer Institute (NIH) Postdoctoral fellow
- 2007年1月 National Cancer Institute (NIH) 日本学術振興会海外特別研究員
- 2007年9月 大阪大学大学院医学系研究科 産科学婦人科学 助教
- 2018年4月 大阪大学大学院医学系研究科 産科学婦人科学 講師
- 2022年4月 (兼)大阪大学感染症総合教育研究拠点CIDER 兼任教員
- 2025年4月 (兼)大阪医科大学医学部 医療統計学研究室 非常勤講師
- 2025年9月 和歌山県立医科大学 先進予防・健康医学講座 教授

フ ェ ー カ ス

HPVワクチンをご存じでしょうか。子宮頸がんを予防するワクチン、副反応問題が起こったワクチン、よく知らないワクチン、いろいろな受け止め方があるかと思います。HPVワクチンは、20~40代の方に急増し、治療によって妊娠する能力が失われる、極めて深刻な子宮頸がんを予防できる画期的なワクチンです。有効性・安全性は確立され、政府も積極的に接種を勧めています。重篤な副反応の起こる割合は極めて少なく、万が一の際にも当院と日本赤十字社和歌山医療センターが万全を期して対応する体制が整備されております。世界中で広く接種され、日本でもこれまでに何百万人の方が接種されています。ぜひご安心して接種をご検討ください。



教授就任挨拶

質の高い画像診断と放射線治療を



放射線医学講座
教授 土井 啓至

このたび、2025年12月1日付けで和歌山県立医科大学放射線医学講座教授を拝命しました土井啓至と申します。就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

放射線科は、CTやMRIなどの医療画像を用いて病気を診断する「画像診断」、画像を見ながらカテーテルなどを使って診断や治療を行う「インターベンショナルラディオロジー (IVR)」、そして放射線を照射してがん治療を行う「放射線治療」の三つの分野から構成されています。

私はこのうち放射線治療を専門として研鑽を積んでまいりました。特に、肺がん、肝臓がん、直腸がんなどに対する治療を専門とし、高精度放射線治療の開発と普及に注力しております。

技術の進歩により、これまで困難であった診断や治療が可能になる一方で、高い専門性が求められています。当院では、画像診断、IVR、放射線治療のそれぞれに優れた専門医を擁し、スタッフ一丸となって、質の高い医療を提供できるよう努めております。

これからも、安心して診断と治療を受けていただける放射線科を目指してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

経 歴

- 2005年3月 高知大学医学部医学科 卒業
- 2005年4月 神戸朝日病院 臨床研修医 (神戸大学医学部附属病院Cコース)
- 2006年1月 神戸大学医学部附属病院 臨床研修医
- 2007年4月 公立学校共済組合近畿中央病院 内科 レジデント
- 2008年8月 兵庫医科大学病院 放射線科 病院助手
- 2011年4月 兵庫医科大学 放射線医学講座 助教
- 2012年3月 兵庫医科大学大学院 修了 (博士(医学))
- 2012年5月 米国スタンフォード大学 留学 (~2013年6月)
- 2016年4月 明和がんクリニック 放射線治療科 科長
- 2017年7月 近畿大学医学部 放射線腫瘍学部門 医学部講師
- 2020年4月 近畿大学医学部 放射線腫瘍学部門 講師
- 2022年4月 近畿大学医学部 放射線腫瘍学部門 特命准教授
- 2024年4月 近畿大学医学部 放射線腫瘍学部門 准教授
- 2025年12月 和歌山県立医科大学 放射線医学講座 教授

診 療 内 容

放射線科の診療は、画像診断、インターベンショナルラディオロジー (IVR)、放射線治療の三分野で構成されています。

画像診断では、X線、CT、MRI、RI、マンモグラフィなどにより迅速で正確な診断を行い、治療方針の決定や効果判定に貢献しています。

IVRは、画像を用いてカテーテルや針を操作して行う低侵襲治療です。肝動脈塞栓術 (TACE)、動脈瘤や出血に対する塞栓術、ドレナージ、生検、ステントグラフトなど幅広く対応しています。

放射線治療では、IMRTや定位放射線治療 (SBRT)、小線源治療などを駆使して、さまざまな悪性腫瘍 (がん) の治療を行っています。また、ケロイドなど一部の良性疾患にも治療を行っています。

画像上: デュアルX線管搭載型CT装置SOMATOM Force (シーメンスヘルスケア社、2019年導入)
画像中: 血管撮影装置Alphenix Sky+および320列IVR-CT Aquilion One (キヤノンメディカルシステムズ社、2024年導入)
画像下: IMRT専用放射線治療装置Radixact (アキュレイ社、2023年導入)



セラピードッグ「チャチャ」とのふれあいで、心も元気に — 小児医療センターで新しい取り組みが始まりました —

長い入院生活を送るお子さんたちにとって、病室で過ごす日々はどうしても単調で、時に不安やさみしさを感じることもあります。そんな子どもたちの心に寄り添う活動として、動物介在活動が欧米を中心に広がっています。犬や猫などの動物とふれあうことで、気分が落ち着き、笑顔が増えたり、リハビリや治療への意欲が高まったりする効果が報告されています。

日本でも、国立成育医療研究センターや東京都立小児医療センターなどで、ファシリテッドッグと呼ばれる専任の犬が常駐し、子どもたちに寄り添っています。しかし、和歌山県下の病院ではこれまでそのような体制は整っていませんでした。

このたび、当院の小児医療センターでは、長期入院をしているお子さんやご家族の心を少しでも癒し、入院中の生活の質（QOL）を高めることを目的に、セラピードッグの定期的な訪問活動を始めました。和歌山県内では、急性期病院の小児科病棟でセラピードッグが活動するのは初の試みです。

訪問してくれるのは、雑種のオス犬「チャチャ」です。7歳のチャチャは元保護犬で、日本動物病院協会（JAHA）和歌山チームリーダーの石田千晴さんが子犬のころから育ててきました。これまでも、和歌山市内の小学校や介護施設を訪れ、多くの人々に笑顔を届けてきた経験豊かなセラピードッグです。



▲セラピードッグ「チャチャ」と
JAHA和歌山チームリーダーの石田 千晴さん

小児病棟では、白血病などの血液腫瘍や摂食障害、炎症性腸疾患など、長期の入院が必要なお子さんがたくさんいます。そのような子どもたちに、少しでも明るい時間を過ごしてもらえようと、7月29日に初めての訪問を行いました。チャチャは病棟のプレイルームで子どもたちとふれあったり、プレイルームに来られないお子さんの病室を訪ねたりしました。

チャチャを見た瞬間、子どもたちの目が輝き、自然と笑顔があふれました。毛並みをなでたり、名前を呼んだり、優しく話しかけたり…。その様子を見守るご家族や医療スタッフにも、温かい空気が広がりました。



▲チャチャと小児病棟スタッフ

この活動は、入院中の子どもや家族だけでなく、日々多忙な医療従事者にも前向きなエネルギーを届けてくれるようです。

今年度は、月1回・計8回の訪問を予定しています。チャチャとの出会いが、子どもたちにとって病院での大切な思い出のひとつとなることを願っています。

●小児医療センター

センター長：徳原 大介

病棟医長：垣本 信幸

師 長：東山 好美

チャイルドライフスペシャリスト：西尾 綾子

マイナンバーで簡単! あなたの医療情報をスマホでチェック

青洲リンクPHR機能



NOBORI アプリのご案内

NOBORIアプリがスマホで登録できるようになりました

これまで青洲リンクのPHR機能「NOBORIアプリ」をご利用いただく際は、登録時に窓口での本人確認が必要でしたが、2025年11月からはマイナンバーカードを使って、スマートフォンだけで登録手続きができるようになりました。

ご自宅などから簡単にお手続きいただけるようになります、より便利にご利用いただけます。

なお、これまでどおり青洲リンク事務局での対面による本人確認もご利用いただけますので、ご希望の方法で登録を行ってください。

※PHR(Personal Health Record)とは、個人が自身の医療や健康に関する情報を記録し、自身の手で管理するサービス。

NOBORIアプリでできること

NOBORIアプリは、青洲リンクのPHR(パーソナル・ヘルス・レコード)機能として、ご自身の医療情報をスマートフォンで確認できる便利なアプリです。主な機能は次のとおりです。

- 検査結果の確認
過去の検査データをスマホでいつでも見られます。
※画像と一部の検査は除きます。
- お薬や注射・点滴情報の確認
- 家族への医療情報の共有
ご家族のスマホに医療情報を共有できます。
- 家族の医療情報の管理や医療情報の共有
(対面での本人確認の場合に限る)
ご家族の情報も登録して、まとめて確認することができます。

簡単な6ステップ

NOBORIアプリの登録方法

1

アプリをインストール



登録無料



過去1年分の情報を無料で見ることができます。

有料プラン(100円(税込)/月)では、2019年4月1日以降の情報が見られます。

2

新規登録



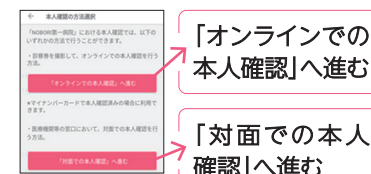
3

医療機関を登録



4

本人確認方法を選択



※対面を選択した時は病院3階青洲リンク事務局までお越しください。

6

診療番号と氏名を入力

承認されると医療情報が参照できます。



5

マイナンバーカードで本人確認(初回のみ)



※デジタル認証アプリのインストールが必要です。

「NOBORIアプリ」の お問い合わせ及び手続きについて

「NOBORIアプリ」の利用手続き・本人確認は、青洲リンク事務局(附属病院3階 医療情報部内 ※右図参照)で行っています。

【受付時間】平日 10:00~16:00 【TEL】073-441-0858

【メールアドレス】info-ml@seishu-link.jp

青洲リンク
事務局
NOBORI
アプリ
利用手続き

これが目印

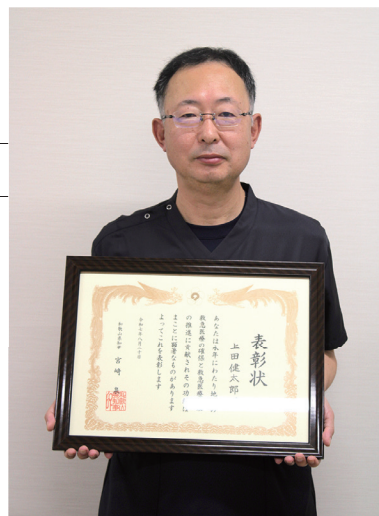


令和7年度救急医療功労者に対する知事表彰を受賞しました！

2025年8月に、救急医療功労者に対する知事表彰式が開催され、本学医学部 救急・集中治療医学講座の上田健太郎准教授が、臨床分野・教育分野の双方において、和歌山県の救急医療に大きく貢献した功績が認められ、知事表彰を受賞されました。

受賞した救急・集中治療医学講座 上田健太郎准教授からのコメント

このたび、私は「救急医療功労者に対する知事表彰」という身に余る光栄な表彰を拝受いたしました。和歌山県立医科大学附属病院高度救命救急センターで17年間にわたり、緊急手術（外傷・急性腹症）やドクターヘリ業務を中心に従事し地域の救急医療体制の確保と向上に携わることができたのは、共に尽力してきた高度救命救急センターの同僚や救急医療関係者の皆さまの支えがあったからこそと、心より感謝申し上げます。昼夜を問わず、救急医療の最前線で地域医療を守るためにご尽力されている皆さまのおかげで、今日の和歌山県医療提供体制が維持されています。今回の受賞を励みに、今後も救急医療の発展に向けてより一層精進して参ります。



主な功績

長きにわたりドクターヘリ搭乗など救急医療の最前線で活躍するとともに、県内共通の救急活動プロトコルの策定に携わるなど救急行政の充実に対して多大な貢献を果たした。また、本学において後進の医師の育成に力を注ぐとともに、地域の協議会等と連携した救急医療従事者の育成に貢献した。

心不全パンデミックに立ち向かう新たな治療戦略の可能性 — DAPA-EAT試験結果の発表 —



近年、心不全患者が増加し「心不全パンデミック」と呼ばれる深刻な状況が広がっています。心不全は発症後に徐々に悪化し死に至るため、発症前の予防が世界的課題です。心臓周囲を取り巻く脂肪組織（EAT）は重要な危険因子とされ、EATが1mL増えると心不全発症リスクが1.6倍に高まると報告されています。

和歌山県立医科大学・循環器内科が中心となり県内関連施設と共同で、症状のない心不全患者にSGLT2阻害薬を24週間服用していただくDAPA-EAT試験を実施しました。その結果、EATは平均25mL減少、加えて心臓の構造を改悪する心筋線維化が改善し、左室の拡張機能

の向上も確認されました。本試験結果は、SGLT2阻害薬による発症前介入という新たな心不全の治療戦略を示すものであり、世界の最新・最重要研究結果の発表の場である米国心臓協会学術集会のLate Breaking Sessionで発表され、循環器領域トップ誌『Circulation』に同時掲載されました。

第33回 和歌山県立医科大学眼科 市民公開講座

今回は、緑内障についてお話させていただきます。ご興味のある方はぜひご参加ください。

- 開催日時 2026(令和8)年3月28日(土) 14:00から(開場13:30/閉会16:00)
- 開催場所 JR和歌山駅前 JAビル 2階和(なごみ)ホール(和歌山市美園町5丁目1番地の1)
- 講演 「緑内障と診断されました。どうしましょう?」

【第1部】講演

- 緑内障とは……………本学 眼科学教室 講師 やすだ しんご 安田 慎吾
- 目薬で大丈夫なの? ……本学 眼科学教室 講師 いしかわ のぶゆき 石川 伸之
- 失明しないの? ……本学 眼科学教室 准教授 すみおか たかよし 住岡 孝吉
- 手術はできるの? ……本学 眼科学教室 准教授 いわにし ひろき 岩西 宏樹

【第2部】質問コーナー

- 参加方法 ご参加ご希望の方は、当日直接ご来場ください。駐車場はございません。

お問い合わせ先

和歌山県立医科大学 眼科学教室 TEL.073-441-0649(担当:石川)



参加無料
申込不要

てんかんに関する悩みはありませんか

てんかんとは、脳の神経細胞に突然発生する激しい電気的な興奮による発作(てんかん発作)を繰り返す脳の慢性疾患で、人種・年齢・性別に関わらず発病します。てんかんを持つ方は、人口100人あたり約1人の割合でいると言われており、めずらしい疾患ではありません。

当院は2025年11月1日付けで和歌山県よりてんかん支援拠点病院に指定されました。

指定を受け、てんかん診療支援コーディネーターを選任し、相談体制を整備しています。

てんかんに関する悩みをお持ちの方はお気軽にご相談ください。



てんかん相談窓口
(患者支援センター内)

【受付時間】午前9時から午後5時まで(土曜日、日曜日、祝日、休日を除く)
【電話連絡先】073-441-0778

青洲基金への寄附金贈呈式を執り行いました



▲和歌山支社長 村尾和義 様(左)と
中尾直之 理事長(右)

和歌山県立医科大学では、「地域を支え、世界に挑む」をモットーに、医療系総合大学としての更なる発展を目指し「和歌山県立医科大学青洲基金」を設置しております。

本基金に対し、明治安田生命保険相互会社様からご寄付を賜り、2025年10月2日に寄附金贈呈式を執り行いました。

今回のご寄付は、同社が2020年より展開する「地元の元気プロジェクト」の取り組みの一環で、従業員がゆかりのある地域を指定して行う募金に会社の拠出を加えた「私の地元応援募金」によるもので、昨年度に引き続き2度目のご寄付となります。

また、同社とは2025年3月に包括連携協定を提携し、ともに県民の健康増進に向けた取組を推進していくこととしています。

掲 示 板

予約センター からの お知らせ

～診察予約のご案内(初めて受診される方へ)～

当院の外来受診は、原則として「診療情報提供書(紹介状)」をお持ちの方による「予約制」とさせていただきます。ご予約は、かかりつけの医療機関等からFAXでお申し込みください。患者さんからの電話による初診予約はお受けできませんので、ご了承ください。

■ ご予約の流れ

- ① かかりつけの医療機関等から当院所定の「紹介予約申込書」と「診療情報提供書(紹介状)」を予約センターあてにFAX送信してください。診療情報提供書がすぐにご用意できない場合は、予約申込日(かかりつけの医療機関等で予約を行った日)から概ね3日までを目途にFAX送信をお願いします。
- ② 予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信します。夜間・休日の場合は翌平日の対応になります。
- ③ 予約当日は、予約票・診療情報提供書(紹介状)・画像データ(必要時)・マイナンバーカード(保険証)・診察券(受診歴のある方)・各種医療券・常用薬・お薬手帳を持参のうえ、各診療科外来受付に直接お越しください。
- ④ 予約日の変更は、当院予約センターにご本人からのお電話で受け付けさせていただきます。ただし、検査予約の変更については、当院の代表番号(073-447-2300)から各診療科外来へ平日15:00～17:00におかけください。

予約センター(患者支援センター)

FAX(医療機関専用)・・・073-441-0805
【受付時間】月・火・水・金…9:00～19:00
木……………9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

TEL(患者さんから予約変更専用)・・・073-441-0489
【受付時間】月～金…8:30～16:00(土・日・祝日・年末年始を除く)
※「痔がんドック」及び「がん検診後の2次検査」の予約については、
上記予約変更専用番号にてご予約が可能です。

最新の医学・医療カンファランスのお知らせ

2025年度第10回市民公開講座を下記の通り開催します。医学・医療に関する専門的知識は必要ありませんので、興味のある方は、ぜひご参加ください。

- 開催日 2026年3月5日(木) 14:00～16:00
- 会 場 本学 紀三井寺キャンパス 図書館棟3階 研修室
- 内 容 講演Ⅰ 『肝臓専門医が考えるアルコール関連問題 ―肝臓病や依存症について―』
講演Ⅱ 『進歩する肺がんの手術 ～地域を支える和医大チームの取り組み～』

【申し込み・問い合わせ】

生涯研修センター
TEL.073-441-0789/FAX.073-441-0713
定員は先着30名まで
申し込み締切:2026年1月29日(木)まで

患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

1. 個人として尊厳と人格が尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
2. 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
3. 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
4. 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
5. 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。
著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

1. 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
2. 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
3. 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
4. すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
5. 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願いいたします。
6. 医師、看護職員、病院職員に対する謝礼、贈答品は固くお断りしています。

和歌山県立医科大学附属病院広報誌「まんだらげ」(vol.75)

2026年1月発行 発行/和歌山県立医科大学附属病院
〒641-8510 和歌山市紀三井寺811-1

TEL 073-447-2300
FAX 073-441-0706

ホームページアドレス
<https://www.wakayama-med.ac.jp/hospital>
「まんだらげ」はホームページからもご覧いただけます。



— 外来受付時間 —

- 受付時間:午前8時50分～午前11時30分
- 再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
- 休診日:土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- ※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。

次号発行は
2026年
4月です。